

類義関係・対義関係に基づく語彙構造

—上下移動動詞「アガル・アゲル／サガル・サゲル」の場合

田中章夫

類義関係と対義関係に基づいて、上下移動動詞「アガル・アゲル／サガル・サゲル」をめぐる動詞群の語彙構造を考察する。

1. 「アガル・アゲル」と「サガル・サゲル」の類義構造

1-1. 「アガル」をめぐる類義語群 (図1・上段)

「アガル」と意味・用法の重なる動詞は、「ノボル」「ノル」「オウル」「ハイル」である。その重なりを、図1では「 $X \cap Y$ (論理積 Logical AND)」の形で示す。

○ $A \cap B$ 「気温が40度にアガル／ノボル」「頂点にアガル／ノボル」

○ $A \cap C$ 「山車の屋根にアガル／ノル」

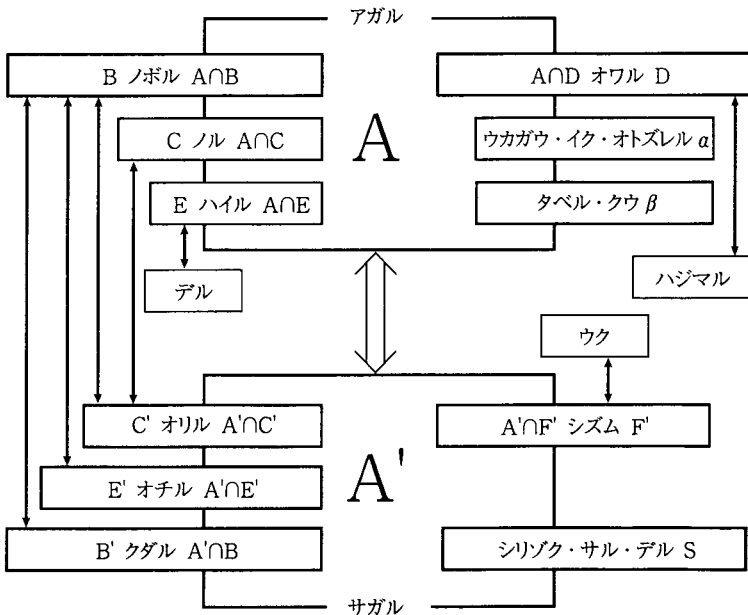


図1 「アガル・サガル」をめぐる語彙構造

○ $a\eta\gamma$ 「ご褒美をアゲル/タマウ/アタエル/ヤル」

また、古くは「娘を後にアゲル」など「アゲル/トツガス」の系列もあった。

1-3. 「サガル」をめぐる類義語群 (図1・下段)

「サガル」と意味・用法の重なる動詞は、「オ Ril」 「クダル」 「オチル」 「シズム」である。

○ $A'\eta C'$ 「気温が氷点下にサガル/クダル」 「アタック隊がベースキャンプにサガル/クダル」

○ $A'\eta B'$ 「リフトが地下にサガル/オ Ril」 「吊り輪が手の届く所までサガル/オ Ril」

○ $A'\eta E'$ 「成績がサガル/オチル」 「能率がサガル/オチル」

○ $A'\eta F'$ 「地盤がサガル/シズム」 「最下位にサガル/シズム」

「サガル」には、敬意・尊卑の意識による「サガル/シリゾク/サル/デル」の系列の類義語群がある。

○ $A'\eta \delta'$ 「宮殿をサガル/シリゾク/サル/デル」

1-4. 「サゲル」をめぐる類義語群 (図2・下段)

「サゲル」と意味・用法の重なる動詞は、「オロス」 「オトス」 「ツルス」である。

○ $a'\eta c'$ 「リフトを地下にサゲル/オロス」 「吊り輪を手の届く所までサゲル/オロス」

○ $a'\eta e'$ 「成績をサゲル/オトス」 「能率をサゲル/オトス」

○ $a'\eta f'$ 「首にペンダントをサゲル/ツルス」 「軒先に風鈴をサゲル/ツルス」

「サゲル」には、敬意・尊卑の意識による「サゲル/カタツケル/ヒッコメル」の系列の類義語群がある。

○ $a'\eta \epsilon$ 「お客さまのお膳をサゲル/カタツケル/ヒッコメル」

2. 「アガル・サガル」と「アゲル・サゲル」の対義構造

2-1. 「アガル」「サガル」をめぐる対義語群 (図1)

「アガル」をめぐる類義語群に、意味・用法の対立する対義語群には、「アガル \Leftrightarrow サガル」のほか、「アガル・ノボル \Leftrightarrow サガル・クダル」 「アガル \Leftrightarrow サガル・クダル」 「アガル・ノル \Leftrightarrow サガル・オ Ril」 「アガル \Leftrightarrow サガル・オチル」 「アガル・ノボル \Leftrightarrow オチル・シズム」 などがある。その対立軸 (指向性 Vector) は、「 \Leftrightarrow 」で示す。また、類義語のセットとの対立の場合、そのセットは、「XUY (論理和 Logical OR)」の形で示す。

○ $A\leftrightarrow A'$ 「熱がアガル \Leftrightarrow 熱がサガル」 「北にアガル \Leftrightarrow 南にサガル」

○ $A\cup B\leftrightarrow A'\cup B'$ 「峠にアガル \Leftrightarrow 峠をクダル」

「京にアガル・ノボル \Leftrightarrow 江戸にクダル」

「気温が40度にあがる・ノボル⇔気温が氷点下にさがる・クダル」
 「首位にノボル⇔二位にさがる」

- AUB⇔A'UE' 「腕前があがる⇔腕前がおちる」
 「成績があがる⇔成績がさがる・おちる」
 「都にあがる・ノボル⇔西国にクダル・おちる」

- AUC⇔A'UC' 「幕があがる⇔幕がおりる」
 「屋根にあがる・ノル／屋根からおりる」
 「リフトがあがる⇔リフトがさがる・おりる」

- A⇔A'UF' 「地盤があがる⇔地盤がさがる・シズム」

- AUB⇔E'・F' 「日があがる・ノボル⇔日がおちる・シズム」

意味分野 (Semantic Field) を広げると、「あがる⇔さがる」の周辺には、「ノボル (B)⇔クダル (B')」「ノボル (B)⇔おりる (C)」「ノボル (B)⇔おちる (E')」「ノル⇔おりる」「オウル (D)⇔ハジマル」「ハイル (E)⇔デル」「ウク⇔シズム (F')」の対義的対立への広がりが見られる。

2-2. 「アゲル」「サゲル」をめぐる対義語群 (図2)

- a⇔a' 「水圧をアゲル⇔水圧をサゲル」
- aUc1⇔a'Uc' 「本を棚にアゲル・ノセル⇔本を棚からおロス」
- aUc2⇔a'Uc' 「幕をアゲル⇔幕をおロス」「腰をアゲル⇔腰をおロス」
 「信号旗をアゲル・カカゲル⇔信号旗をサゲル・おロス」

- a⇔a'Ue' 「腕前をアゲル⇔腕前をおトス」
 「評価をアゲル⇔評価をサゲル・おトス」「成績をアゲル⇔成績をサゲル・おトス」

意味分野を広げると、「アゲル⇔サゲル」の周辺には、「ノセル (c1)⇔おロス (c')」「カカゲル (c2)⇔おロス (c')」「オエル (d)⇔ハジメル」「イレル (e)⇔ダス」「ヒロウ⇔おトス (e')」の対義的対立への広がりが見られる。

- 3. 古典語の場合も、「アガル・アグ」「サガル・サグ」をめぐる類義構造・対義構造は、現代の標準日本語と大差ないが、「時・時代・時刻」に関するものとして、「時をあがる (時代を遡る)」「時がさぐ (時が過ぎる)・時にさぐ (時刻に遅れる)」があり、「アガル (高まる)⇔サガル (衰える)」「アグ (褒める)⇔サグ (貶す)」の対立なども見られる。

- 4. 台北・東呉大学の王世和・蘇克保両氏によると、現代中国語の「上」「下」などの移動動詞の主な用法は、図3の通りだという。古代中国語に由来する、日本語の用法 (上・揚・挙・騰／下・提) に見られるものとは、大幅に異なるようである。ただし、用法の限られる慣用的なものまであげれば、図4に示

第2章・1節1)

すように、日本語の用字法に見られるものは、一通り出てくる。この中で「提」が「サゲル」の意味ではなく、「引き上げる・高める」の意味を表す点は、興味深い。

上車 (船、飛機) (交通手段、乗り物)	下車 (船、飛機)	上市 (季節性のあるものが) 売り出される; 店頭に見れる	☆
上樓 (上の階に上る)	下樓 (下の階に下りる)	上戰場 (戦場に行く)	☆
上臺 (ステージに上がる)	下臺 (ステージから下りる)	上洗手间 (トイレに行く)	☆
上山	下山	上薬 (薬をつける)	☆
上班 (仕事に行く)	下班 (仕事が終わる)	上飯(菜、茶)料理などを食卓に乗せる	☆
上課 (授業に行く)	下課 (授業が終わる)	上岸 (上陸する)	☆
上場 (試合に出る)	下场	上當 (おなにはまる)	☆
		上刺刀 (銃剣をつける)	☆
上去(来)	下来(去)	上網 (インターネットをする)	☆
上傳 (download)	下載 (upload)	上吊 (首を吊る)	☆
上天堂	下地獄	上街 (街に出る)	☆
上映	下片	上電視 (テレビに出る)	☆
上岸	下海	上鏡頭 (カメラに映る)	☆
上台北	下高雄	上路 (出現する; 旅に出る)	☆
北上	南下	上年紀 (年を取る)	☆
體溫(氣溫、溫度)上 升	體溫(氣溫、溫度)下 降	上訴	☆
		上香 (線香を立てる)	☆
上學 (学校へ行く)	放學 (学校が終わる)	☆	下雨 (雨が降る)
上床 (ベットに入る)	起床 (ベットから起きる)	☆	下雪 (雪が降る)
上前 (前へ出る)	退後 (後ろへ下がる)	☆	下棋 (碁などを打つ)
上榜 (合格する)	落榜 (落第する)	☆	下筆 (筆を下ろす; 書き始める)
上任 (就任する)	卸任 (退任する)	☆	下毒手 (悪辣な手段を取る)
上鎖 (鍵をかける)	開鎖 (鍵を開ける)	☆	下毒 (毒を入れる)
		☆	下嫁 (自分より身分の低い人に嫁ぐ)
太陽升起(出来) (日が昇る)	太陽下山 (日が沈む)	☆	下令 (命令を下す)
		☆	下鄉 (農村へ赴く)
		☆	下凡 (神仙が下界に降りる、凡人になる)
上吐下瀉 (嘔吐と下痢をする)		☆	下跪 (ひざまずく)
上行下效 (上がやれば下も真似する、悪いこと)			
上樑不正下樑歪 (上の棟木が曲っていると、下の梁もゆがむ; 上に立つ人が正しくなければ、下の者もわるくなる)			

注: ☆は、反義語がない表現。

◎ 「舉/揚/騰/提」

・「あげる/あがる」の意味で使用される場合に限って言えば、四語とも生産性が低く、慣用的表現がほとんどと思われる。

舉手	(手を挙げる)
舉啞鈴	(鉄アレンを挙げる)
舉杯	(杯・コップを挙げる)
舉兵	(兵を挙げる)
舉例	(例を挙げる)
高舉	(高く挙げる)
舉起(來)	(持ち上げる)
揚帆	(帆を揚げる)
揚名	(名を揚げる)
塵土飛揚	(ほこりが舞い上がる)
提高	(引き上げる/高める)
提升	(引き上げる/高める)
提燈籠	(ちょうちんを持つ)
騰空	(空中に舞い上がる)
歡騰	(喜びにわきかえる)

ちなみに、「あげる/あがる/のぼる」に当たる表現は、「升(昇)」「爬」もある。

升等	(昇格・昇進する、職位があがる)
升格	(昇格させる、昇進させる、レベル・位があがる)
升級	(進級する、レベルがあがる)
升官	(官位があがる)
升空	(空にのぼる)
升天	(空にのぼる、死ぬ)
升学	(進学する)
升旗	(旗をあげる)
升帆	(帆をあげる)
升火	(火をおこす)
爬坡	(さかをのぼる)
爬山	(山をのぼる)
爬牆	(壁をよじりのぼる)
爬樹	(木にのぼる)
爬上	(上にのぼる)
爬升	(上昇する)

図4